



# 認定理学療法士 臨床認定カリキュラム シラバス

## — 目次 —

### 循環

2

#### 必須科目

1. 正常な構造・機能と疾病の基礎	3
2. 医学的診断と治療介入	3
3. 理学療法介入の意義と理学療法士の役割	4
4. 疾患によって生じる障害とその評価および予後予測	4
5. 虚血性心疾患患者に対する循環器理学療法	5
6. 心不全患者に対する循環器理学療法	6
7. 大血管疾患患者に対する循環器理学療法	7
8. 末梢血管疾患に対する循環器理学療法	8
9. 腎機能障害に対する循環器理学療法	9
10. 高齢者循環器疾患に対する循環器理学療法	10
11. 終末期における理学療法	11
12. 自立支援や疾病管理の補助具・機器とその活用	12
13. 発症予防、重症化予防、再発予防	12
14. 患者・家族教育の意義とその方法	13
15. 社会資源の活用	14

#### 選択科目

1. 疾病・障害特異的理学療法の実際 (技術編1) (心電図の診かた)	15
2. 疾病・障害特異的理学療法の実際 (技術編2) (循環・腎機能障害把握のための理学療法評価の実際)	15
3. 疾病・障害特異的理学療法の実際 (技術編3) (循環器理学療法に必要な機能的能力の評価指標)	15
4. 疾病・障害特異的理学療法の実際 (技術編4) (運動負荷試験・運動処方立案の実際)	15
5. 疾病・障害特異的理学療法の実際 (技術編5) (リスク管理の実際)	15
6. 疾病・障害特異的理学療法の実際 (技術編6) (高齢心血管器疾患に対する運動療法の実際)	15
7. 疾病・障害特異的理学療法の実際 (技術編7) (慢性心不全患者に対する運動療法の実際)	15
8. 疾病・障害特異的理学療法の実際 (技術編8) (大血管疾患に対する運動療法の実際)	15

# 認定理学療法士 臨床認定カリキュラム一覧

## 循環

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 循環障害に対する理学療法に必要な病態生理を理解し、診断や治療、予後予測について説明することができる。</li> <li>● 理学療法ガイドライン等を理解し、評価や治療介入を実践することができる。</li> <li>● 病期、障害に即した理学療法を説明し、実施することができる。</li> <li>● 循環器病の発症予防や重症化予防および再発予防の考え方やその方法を理解し、説明することができる。</li> <li>● 患者、家族に対し、適切な理学療法指導および教育を実施することができる。</li> <li>● 活用できる社会資源を理解するとともに、自立支援および疾病管理について説明することができる。</li> </ul>
------	---

科目名		担当者	
必須科目 (15コマ)  ● 1コマあたり90分 ● 15コマ全ての履修を修了要件とする。	1	正常な構造・機能と疾病の基礎	児玉
	2	医学的診断と治療介入	児玉
	3	理学療法介入の意義と理学療法士の役割	岡田
	4	疾患によって生じる障害とその評価および予後予測	岡田
	5	虚血性心疾患患者に対する循環器理学療法	日高
	6	心不全患者に対する循環器理学療法	日高
	7	大血管疾患患者に対する循環器理学療法	日高
	8	末梢血管疾患に対する循環器理学療法	日高
	9	腎機能障害に対する循環器理学療法	岡田
	10	高齢者循環器疾患に対する循環器理学療法	日高
	11	終末期における理学療法	岡田
	12	自立支援や疾病管理の補助具・機器とその活用	岡田
	13	発症予防、重症化予防、再発予防	日高
	14	患者・家族教育の意義とその方法	日高
	15	社会資源の活用	岡田

科目名		担当者	
選択科目 (5コマ以上を選択して開講)  ● 1コマあたり90分 ● 5コマ以上を選択して、履修することを修了要件とする。 ● 各分野における特定の技術など、その分野の知識・技術を広げる上で、必要となるカリキュラムを設定する。	1	疾病・障害特異的理学療法の実際（技術編1）（心電図の診かた）	堀端
	2	疾病・障害特異的理学療法の実際（技術編2）（循環・腎機能障害把握のための理学療法評価の実際）	
	3	疾病・障害特異的理学療法の実際（技術編3） （循環器理学療法に必要な機能的能力の評価指標）	岡田
	4	疾病・障害特異的理学療法の実際（技術編4） （運動負荷試験・運動処方立案の実際）	石橋
	5	疾病・障害特異的理学療法の実際（技術編5）（リスク管理の実際）	日高
	6	疾病・障害特異的理学療法の実際（技術編6）（高齢心血管器疾患に対する運動療法の実際）	
	7	疾病・障害特異的理学療法の実際（技術編7） （慢性心不全患者に対する運動療法の実際）	日高
	8	疾病・障害特異的理学療法の実際（技術編8）（大血管疾患に対する運動療法の実際）	

# 循環 必須科目

## 1

### 正常な構造・機能と疾病の基礎

概要／ねらい	臓器や器官の正常な構造および機能を確認するとともに、その破綻によって生じる症状を理解する。また、その疾患の疫学、病態、病型、予後などの情報を整理・理解し、それらを習得する。
--------	--

単元	項目	履修する内容
1	循環器(心臓・血管)の正常な構造と機能	1) 正常な構造 循環器理学療法を行う上で、心臓や血管の構造を熟知することは必須である。循環器系の役割を理解するとともに、心臓および血管の構造と特徴を理解する。
	2) 正常な機能	循環器理学療法を行う上で、心臓や血管の機能を熟知することは必須である。循環動態の調節機能を理解し、とくに血圧、心拍出量の規定因子、そして運動時の循環生理を理解する。
2	循環器疾患の疫学と病態、病型、予後	1) 虚血性心疾患の疫学、病態、予後 循環器疾患の中でも主たる疾患である虚血性心疾患(心筋梗塞、狭心症)の疫学を整理して病態を理解する。また、虚血性心疾患の危険因子、発症メカニズム、そして分類なども理解する。
	2) 大血管・末梢血管疾患の疫学、病態、病型、予後	大血管・末梢血管疾患(大動脈瘤、閉塞性動脈硬化症など)の疫学を整理して病態を理解する。また、大血管・末梢血管疾患の危険因子、発症メカニズム、そして分類なども理解する。
	3) 心不全の疫学、病態、予後	心不全の疫学を整理して病態を理解する。また、心不全の危険因子、発症メカニズム、そして分類なども理解する。

## 2

### 医学的診断と治療介入

概要／ねらい	医学的な診断や治療介入の方法や時期などについて、各種ガイドラインあるいは指針などに基づいて理解する。また、他職種との関わりを整理し、各職種が関わる意義を理解する。
--------	---

単元	項目	履修する内容
1	循環器疾患の診断と治療介入	1) 虚血性心疾患の診断と治療介入 循環器疾患の中でも主たる疾患である虚血性心疾患(心筋梗塞、狭心症)の診断や検査方法について理解する。また、虚血性心疾患の治療方法を、急性期治療と慢性期治療に分けて理解する。
	2) 大血管・末梢血管疾患の診断と治療介入	大血管・末梢血管疾患(大動脈瘤、閉塞性動脈硬化症など)の診断や検査方法について理解する。また、大血管・末梢血管疾患の治療方法を外科的手術と内科的治療に分けて理解する。
	3) 心不全の診断と治療介入	心不全の診断や検査方法について理解する。また、心不全の治療方法は急性期治療と慢性期治療に分けて理解する。
2	心血管疾患におけるリハビリテーションに関するガイドライン・理学療法診療ガイドライン	1) 心血管疾患におけるリハビリテーションに関するガイドラインの概要と動向 循環器疾患の診断に必要な標準的な身体所見、画像所見、血液生化学的所見、電気生理学的所見などについて、各種ガイドラインや指針などに基づき、具体的な検査の方法や結果およびその解釈の方法について整理・理解する。
	2) 理学療法診療ガイドライン概要と動向	循環器理学療法に必要な、理学療法評価と理学療法効果判定の指標について整理して、それぞれの推奨グレードを理解する。

# 3

## 理学療法介入の意義と理学療法士の役割

概要／ねらい		理学療法による介入の意義や目的を確認し、また、他職種と比較した理学療法士の役割を理解する。	
単元	項目	履修する内容	
1	循環器疾患の治療に関わる職種とその役割	1) 各職種とチーム医療の提供	循環器疾患、とくに心不全においては単一の職種だけで治療や管理を実施することは難しく、多くの職種で構成されるチーム医療体制による多面的アプローチが必要である。各職種とチーム医療の提供について学習し、理解する。
		2) カンファレンス	多面的アプローチを成功させるためには、他職種との意思疎通が重要であり、カンファレンスは必須であることを理解する。循環器疾患に対するカンファレンスについてその役割と内容を理解する。
2	他職種と比較した場合の理学療法士の役割	1) チーム内での理学療法士の役割	他職種とのチームでは分業により多面的アプローチを行うことを理解する。他職種と比較した場合の理学療法士のチーム内での役割について理解する。
3	循環器理学療法介入意義	1) 理学療法士の介入意義	理学療法士が循環器障害のことを学習する意味を理解し、また、循環器疾患により障害を受けている対象者に理学療法介入をする意義について理解する。

# 4

## 疾患によって生じる障害とその評価および予後予測

概要／ねらい		疾患によって生じる障害を整理するとともに、その障害の評価方法を理解する。また、評価に基づいた予後予測の考え方や方法を理解し、予後予測に基づく理学療法介入の意義を理解する。	
単元	項目	履修する内容	
1	疾患により生じる障害	1) 病態の把握	疾患によって生じる心臓機能障害について、その領域を理解する。また、その領域が持つ心臓機能とほかの所見を関連させて整理・理解する。さらに、病型による特徴などについても理解する。なお、心臓機能障害により生じる意識障害、呼吸障害、運動障害、心理状態の変化などについても理解する。
		2) 疾患の重症度	疾患の重症度の把握のために必要となる標準的な身体所見、検査所見(画像所見、血液生化学的所見、心電図所見など)について、各種ガイドラインや指針などにに基づき、具体的な検査の方法や結果およびその解釈の方法について整理・理解する。
2	障害の評価方法	1) 代表的な評価指標の把握	代表的な評価指標の把握のために必要となる標準的な身体所見、検査所見(画像所見、血液生化学的所見、心電図所見など)について、各種ガイドラインや指針などにに基づき、具体的な身体機能を含む検査の方法や結果およびその解釈の方法について整理・理解する。
		2) 評価に基づく解釈	各種ガイドラインや指針などにに基づいて、疾患に対して行われる評価に基づく急性期治療(保存的治療、観血的治療、血管内治療、薬物療法など)について整理・理解する。また、身体機能の評価についても、病型や病期、介入方法などに分けて整理・理解する。
3	評価に基づく予後予測	1) 重症度と生命・機能的予後予測	疾患の重症度に基づき、生命予後および日常生活レベル含む機能的予後予測のために必要となる標準的な指標(最高酸素摂取量、筋力、身体活動など)について、各種ガイドラインや指針などにに基づき、具体的な予測の方法や結果およびその解釈の方法について整理・理解する。
		2) 重症度と二次予防	疾患の重症度に基づき、二次予防のために必要となる標準的な指標(脂質管理、糖尿病管理、血圧管理、体重管理、運動療法、禁煙指導、飲酒指導、うつ、不安症、不眠症など)について、各種ガイドラインや指針などにに基づき、具体的な患者教育の方法や結果およびその解釈の方法について整理・理解する。

## 5

## 虚血性心疾患患者に対する循環器理学療法

概要/ねらい	虚血性心疾患患者に対する循環器理学療法の基本的な考え方を整理・理解する。また、それらの介入による効果やその検証方法について理解する。
--------	--

単元	項目	履修する内容
1 虚血性心疾患に対する循環器理学療法	1) 虚血性心疾患とは	心筋梗塞および狭心症などの虚血性心疾患の疫学、病態、分類、医学的治療、薬物治療などについて整理・理解する。また、その背景となる冠危険因子(高血圧症、脂質異常症、糖尿病など)の合併症についても整理・理解する。
	2) 循環器理学療法の意義	各種ガイドラインや指針などに基づいて、虚血性心疾患に対して行われる循環器理学療法の意義について整理・理解する。また、その背景となる冠危険因子(高血圧症、脂質異常症、糖尿病など)の合併症に対する循環器理学療法の意義についても整理・理解する。
2 評価、処方および介入方法	1) 評価および処方	虚血性心疾患に対する標準的な身体所見、検査所見(画像所見、血液生化学的所見、心電図所見など)の評価について各種ガイドラインや指針などに基づいて、整理・理解する。また、標準的な身体機能評価指標(最高酸素摂取量、筋力、身体活動など)およびそれに基づく処方について整理・理解する。
	2) 介入方法	各種ガイドラインや指針などに基づいて、虚血性心疾患に対して行われる具体的な介入方法(有酸素運動、レジスタンストレーニングなど)について整理・理解する。また、その背景となる冠危険因子(高血圧症、脂質異常症、糖尿病など)の合併症に対する介入方法についても整理・理解する。
3 効果検証方法	1) 効果検証法	虚血性心疾患に対して行われる再評価の方法について各種ガイドラインや指針などに基づいて整理・理解する。また、冠危険因子(高血圧症、脂質異常症、糖尿病など)の合併症に対する再評価についても整理・理解する。また、それらを踏まえ、改善するもの、しないものの割合や程度、さらに時間的要因などについても検証する。
	2) 二次予防の方法	二次予防のために必要となる標準的な指標(脂質管理、糖尿病管理、血圧管理、体重管理、運動療法、禁煙指導、飲酒指導、うつ、不安症、不眠症など)について、各種ガイドラインや指針などに基づき、具体的な患者教育の方法や結果およびその解釈の仕方について整理・理解する。

## 6

## 心不全患者に対する循環器理学療法

概要/ねらい	心不全に対する循環器理学療法の基本的な考え方を整理・理解する。また、それらの介入による効果やその検証方法について理解する。
--------	---

単元	項目	履修する内容
1 心不全に対する 循環器理学療法	1) 心不全とは	心不全の疫学、病態、分類、医学的治療、薬物治療などについて整理・理解する。また、その背景となる冠危険因子（高血圧症、脂質異常症、糖尿病など）の合併症についても整理・理解する。
	2) 循環器理学療法の意義	各種ガイドラインや指針などに基づいて、心不全に対して行われる循環器理学療法の意義について整理・理解する。また、その背景となる冠危険因子（高血圧症、脂質異常症、糖尿病など）の合併症に対する循環器理学療法の意義についても整理・理解する。
2 評価、処方 および介入方法	1) 評価および処方	心不全に対する標準的な身体所見、検査所見（画像所見、血液生化学的所見、心電図所見など）の評価について各種ガイドラインや指針などに基づいて、整理・理解する。また、標準的な身体機能評価指標（最高酸素摂取量、筋力、身体活動など）およびそれに基づく処方について整理・理解する。
	2) 介入方法	各種ガイドラインや指針などに基づいて、心不全に対して行われる具体的な介入方法（有酸素運動、レジスタンストレーニングなど）について整理・理解する。また、その背景となる冠危険因子（高血圧症、脂質異常症、糖尿病など）の合併症に対する介入方法についても整理・理解する。
3 効果検証方法	1) 効果検証法	心不全に対して行われる再評価の方法について各種ガイドラインや指針などに基づいて整理・理解する。また、冠危険因子（高血圧症、脂質異常症、糖尿病など）の合併症に対する再評価についても整理・理解する。また、それらを踏まえ、改善するもの、しないものの割合や程度、さらに時間的要因などについても検証する。さらに、心血管理学療法ガイドラインについてもその概要を整理し、活用方法を理解し、今後の動向についても概観する。
	2) 二次予防の方法	二次予防のために必要となる標準的な指標（脂質管理、糖尿病管理、血圧管理、体重管理、運動療法、禁煙指導、飲酒指導、うつ、不安症、不眠症など）について、各種ガイドラインや指針などに基づき、具体的な患者教育の方法や結果およびその解釈の仕方について整理・理解する。

## 7

## 大血管疾患患者に対する循環器理学療法

概要/ねらい

大血管疾患に対する循環器理学療法の基本的な考え方を整理する。また、それらの介入による効果やその検証方法について理解する。

単元	項目	履修する内容
1 大血管疾患に対する循環器理学療法	1) 大血管疾患とは	大血管疾患の疫学、病態、分類、医学的治療、薬物治療などについて整理・理解する。また、その背景となる冠危険因子(高血圧症、脂質異常症、糖尿病など)の合併症についても整理・理解する。
	2) 循環器理学療法の意義	各種ガイドラインや指針などに基づいて、大血管疾患に対して行われる循環器理学療法の意義について整理・理解する。また、その背景となる冠危険因子(高血圧症、脂質異常症、糖尿病など)の合併症に対する循環器理学療法の意義についても整理・理解する。
2 評価、処方および介入方法	1) 評価および処方	大血管疾患に対する標準的な身体所見、検査所見(画像所見、血液生化学的所見、心電図所見など)の評価について各種ガイドラインや指針などに基づいて、整理・理解する。また、標準的な身体機能評価指標(最高酸素摂取量、筋力、身体活動など)およびそれに基づく処方について整理・理解する。
	2) 介入方法	各種ガイドラインや指針などに基づいて、大血管疾患に対して行われる具体的な介入方法(有酸素運動、レジスタンストレーニングなど)について整理・理解する。また、その背景となる冠危険因子(高血圧症、脂質異常症、糖尿病など)の合併症に対する介入方法についても整理・理解する。
3 効果検証方法	1) 効果検証法	大血管疾患に対して行われる再評価の方法について各種ガイドラインや指針などに基づいて整理・理解する。また、冠危険因子(高血圧症、脂質異常症、糖尿病など)の合併症に対する再評価についても整理・理解する。また、それらを踏まえ、改善するもの、しないものの割合や程度、さらに時間的要因などについても検証する。また、心血管理学療法ガイドラインについてもその概要を整理し、その活用方法を理解し、今後の動向についても概観する。
	2) 二次予防の方法	二次予防のために必要となる標準的な指標(脂質管理、糖尿病管理、血圧管理、体重管理、運動療法、禁煙指導、飲酒指導、うつ、不安症、不眠症など)について、各種ガイドラインや指針などに基づき、具体的な患者教育の方法や結果およびその解釈の仕方について整理・理解する。



## 8

## 末梢血管疾患に対する循環器理学療法

概要/ねらい	末梢血管(動脈・静脈)疾患に対する循環器理学療法の基本的な考え方を整理・理解する。また、それらの介入による効果やその検証方法について理解する。
--------	---

単元	項目	履修する内容
1 末梢血管疾患に対する循環器理学療法	1) 末梢血管疾患とは	末梢血管疾患の疫学、病態、重症度分類、医学的治療、薬物治療などについて整理・理解する。また、その末梢血管疾患の原因となる動脈硬化のリスク因子(高血圧症、脂質異常症、糖尿病など)や合併症についても整理・理解する。
	2) 循環器理学療法の意義	日本循環器学会ガイドラインやそのほかの関連学会から発表されている指針、エビデンスなどに基づいて、末梢血管疾患(末梢動脈疾患、深部静脈血栓症)に対して行われる循環器理学療法の対象、目的、意義について整理・理解する。
2 評価、処方および介入方法	1) 評価および処方	末梢血管疾患の標準的な理学療法評価[問診、身体所見、検査所見(足関節上腕血圧比など)、身体機能評価、運動負荷試験、ADL・QOLなど]について各種ガイドラインや指針などに基づいて、整理・理解する。また、評価結果に基づく運動処方について整理・理解する。
	2) 介入方法	日本循環器学会ガイドラインやそのほかの関連学会から発表されている指針、エビデンスなどに基づいて、末梢血管疾患に対して行われる標準的な理学療法(歩行トレーニング、レジスタンストレーニング、物理療法、装具療法)について整理・理解する。
3 効果検証方法	1) 効果検証法	末梢血管疾患に対して行われる再評価・効果判定の方法について、各種ガイドラインや指針、エビデンスなどに基づいて整理・理解する。また、合併症や動脈硬化のリスク因子に対する再評価についても整理・理解する。
	2) 二次予防の方法	各種ガイドラインや指針、エビデンスなどに基づき、末梢動脈疾患の二次予防のために必要となる標準的な指標(身体活動量、フットケアなど)と結果およびその解釈の方法について整理・理解する。また、二次予防に必要な具体的な患者教育の方法について整理・理解する。

## 9

## 腎機能障害に対する循環器理学療法

概要／ねらい

腎機能障害に対する循環器理学療法の基本的な考え方を整理・理解する。また、それらの介入による効果やその検証方法について理解する。

単元	項目	履修する内容
1 腎機能障害に対する循環器理学療法	1) 腎機能障害とは	腎機能障害(急性腎障害・慢性腎臓病)の疫学、病態、重症度、医学的治療、薬物治療などについて整理・理解する。また、腎機能障害のリスク因子(高血圧症、脂質異常症、糖尿病など)や合併症についても整理・理解する。
	2) 循環器理学療法の意義	日本循環器学会ガイドラインやそのほかの関連学会から発表されている指針、エビデンスなどに基づいて、腎機能障害(とくに慢性腎臓病を中心に)を有する循環器疾患患者に対して行われる循環器理学療法の意義について整理・理解する。
2 評価、処方および介入方法	1) 評価および処方	腎機能障害(とくに慢性腎臓病を中心に)を有する循環器疾患患者の標準的な理学療法評価(身体所見、検査所見、身体機能、ADL・QOLなど)について各種ガイドラインや指針、エビデンスなどに基づいて整理・理解する。また、評価結果に基づく運動処方について整理・理解する。
	2) 介入方法	各種ガイドラインや指針、エビデンスなどに基づいて、腎機能障害(とくに慢性腎臓病を中心に)を有する循環器疾患患者に対して行われる具体的な理学療法(有酸素運動、レジスタンストレーニング、ADLトレーニングなど)について整理・理解する。また、透析治療など理学療法実施時の注意点や考慮すべき点についても理解する。
3 効果検証方法	1) 効果検証法	腎機能障害を有する循環器疾患患者に対して行われる再評価・効果判定の方法について、各種ガイドラインや指針、エビデンスなどに基づいて整理・理解する。また、合併症や腎機能障害の増悪因子(塩分過多、身体不活動など)に対する再評価についても整理・理解する。
	2) 二次予防の方法	各種ガイドラインや指針、エビデンスなどに基づき、腎機能障害を有する循環器疾患患者の二次予防のために必要となる標準的な指標(身体活動量など)と結果およびその解釈の仕方について整理・理解する。また二次予防に必要な具体的な患者教育や生活指導の方法について整理・理解する。

## 10

## 高齢者循環器疾患に対する循環器理学療法

概要/ねらい	高齢循環器疾患に対する循環器理学療法の基本的な考え方を整理・理解する。また、それらの介入による効果やその検証方法について理解する。
--------	---

単元	項目	履修する内容
1 高齢循環器疾患 に対する循環器 理学療法	1) 高齢循環器の特徴	高齢循環器疾患の特徴(フレイル・サルコペニア、認知機能障害、重複障害、低栄養など)について整理・理解する。また、高齢循環器疾患患者においては心疾患や合併疾患といった健康問題だけではなく、心理的・社会的側面までおよぶことを理解する。
	2) 循環器理学療法の意義	各種ガイドラインや指針、エビデンスなどに基づいて、フレイル・サルコペニア、重複障害、認知機能障害、低栄養など有する循環器疾患患者に対して行われる循環器理学療法の意義について整理・理解する。
2 評価、処方 および介入方法	1) 評価および処方	フレイル・サルコペニアや重複障害などを有する高齢循環器疾患患者の理学療法評価(フレイル・サルコペニア、身体機能、筋力、ADL・QOL、精神心理機能、認知機能など)の評価について各種ガイドラインや指針などに基づいて整理・理解する。また評価結果に基づく運動処方について整理・理解する。
	2) 介入方法	各種ガイドラインや指針、エビデンスなどに基づいて、フレイル・サルコペニアや重複障害などを有する高齢循環器疾患患者に対して行われる具体的な理学療法について整理・理解する。また高齢循環器疾患に対する理学療法実施時の注意点についても理解する。
3 効果検証方法	1) 効果検証法	フレイル・サルコペニアや重複障害を有する高齢循環器疾患に対して行われる再評価の方法について各種ガイドラインや指針などに基づいて整理・理解する。また、合併症や社会的要因、心理的要因の再評価についても整理・理解する。
	2) 二次予防の方法	各種ガイドラインや指針、エビデンスなどに基づき、高齢循環器疾患の二次予防のために必要となる標準的な指標と結果およびその解釈の方法について整理・理解する。また二次予防に必要な具体的な患者教育や生活指導、介護サービスの利用方法などについて整理・理解する。

## 11

## 終末期における理学療法

概要/ねらい

終末期における理学療法の考え方やその具体的な方法を整理・理解する。また、この時期のリスク管理における注意点やその方法を習得するとともに、介入の方法やその根拠を理解する。

単元	項目	履修する内容
1 終末期の循環器疾患	1) 終末期の循環器疾患の特徴	循環器疾患、とくに心不全における終末期特有の身体症状や精神症状、社会的な問題について整理し、心不全におけるリスクの進展ステージや各ステージにおける治療目標などについて理解する。また、「循環疾患における緩和ケアについての提言」をもとに、積極的治療と緩和ケアを両立することの重要性や終末期ケアと緩和ケアとの違い、緩和ケアの提供体制について理解する。
	2) Advance care planning (ACP)	ACPの概念や目的、狭義のACPと広義のACPについて説明し、ACPの実践方法について理解を深める。また、ACPを実践するための方法として、意思決定支援や事前指示、患者の価値観や嗜好に沿った意思決定を行う Shared decision making や患者と医療者とのコミュニケーションスキルについて理解する。
2 終末期の循環器疾患に対する循環器理学療法	1) 循環器理学療法の意義	循環器疾患の終末期において、理学療法の対象となる患者の選択や考慮すべきリスク・ベネフィットについて整理し、理学療法の介入意義を理解する。また、他職種との連携・協働によるチームアプローチについて説明し、循環器疾患の終末期における理学療法士の役割を理解する。
	2) 評価および処方	終末期の循環器疾患に対する理学療法評価について、評価すべき項目や評価におけるポイントを理解する。また、終末期においては多面的な問題を抱えることから、理学療法実践のための評価に加えて、さまざまな症状や問題に対する全人的苦痛の評価についても理解する。
3 介入方法	1) 介入方法	終末期における理学療法の介入方法とリスクを理解する。とくに終末期の循環器疾患に対する理学療法の適応として代表的な心不全ステージDに該当する強心薬依存状態の治療抵抗性の心不全を中心に、終末期循環器疾患に対する介入方法を理解する。
	2) 在宅リハビリテーション	循環器疾患の終末期において、在宅リハビリテーションの考え方や実践方法について理解する。また、在宅医療と地域社会資源の活用、病診連携などを説明し、在宅リハビリテーションの提供体制や各職種の役割について理解する。

## 12

## 自立支援や疾病管理の補助具・機器とその活用

概要/ねらい	自立支援や介助量軽減のための補助具や機器、疾病を管理するための機器を整理・理解し、その適応や注意点などについて理解する。	
単元	項目	履修する内容
1	循環器疾患に対応する先進医療機器	1) ペースメーカ 各種ペースメーカの名称、特徴について学習する。ペースメーカの基礎的な原理、構造を整理した上で、適応疾患について理解を深める。そのほか、ペースメーカ設置後の日常生活や運動における注意点もあわせて理解する。
		2) 補助人工心臓 補助人工心臓について、現在までの歴史を辿りながら原理を理解する。また、どのような疾患に適応されるのか、周術期の管理や合併症についても整理・理解する。そのほか、術後のリハビリテーションや在宅使用での注意点などについても理解を深める。
2	循環器疾患と疾病管理機器	1) 在宅で活用できる機器 心不全を中心に在宅で活用できる各種機器について理解する。また、セルフモニタリング機器を中心に紹介し、その機器の適応や使用方法などについて内容を理解する。各種機器を使用してどのように疾病管理を行っていくのかを確認する。
		2) ASV 在宅で使用するASVについて、その原理や特徴を整理・理解する。どのような患者像が適応となり、導入までの過程や導入後の管理における注意点などについて説明する。また、ASVのディスプレイの説明、アラートの説明や対処方法についてもあわせて理解する。

## 13

## 発症予防、重症化予防、再発予防

概要/ねらい	循環器病の発症予防や重症化予防、再発予防の考え方やその具体的な方法を理解する。また、その効果検証の方法を理解する。	
単元	項目	履修する内容
1	心筋梗塞	1) 心筋梗塞の重症度 心筋梗塞の病態、疫学、症状、治療法など理解する。その上で、心筋梗塞の重症度分類にはどのようなものがあるのかを各種ガイドラインなどを活用し、理解する。可能であれば実際の症例を提示しながら重症度分類を紹介し、内容を整理・理解する。
		2) 心筋梗塞の重症化、再発予防の方法 心筋梗塞において重症化に繋がる要因や合併症について、さまざまなガイドラインなどを活用しまとめる。また、心筋梗塞の病態への理解を再度確認した上で、どのような再発予防策や方法があるかを整理・理解する。
2	心不全	1) 心不全の重症度 心不全の病態、疫学、症状、治療法など理解し、その上で心不全の重症度分類にはどのようなものがあるのかを各種ガイドラインなどを活用し、理解する。可能であれば実際の症例を提示しながら重症度分類を紹介し、理解を深める。
		2) 心不全の重症化、再発予防の方法 心不全において重症化に繋がる要因や合併症について、さまざまなガイドラインなどを活用し理解する。また、心不全の病態への理解を再度確認した上で、どのような再発予防策や方法があるかを整理・理解していく。
3	循環器対策基本法	1) 循環器対策基本法の目的 2019年に施行された循環器対策基本法について、法案成立に至った経緯や歴史的背景を理解する。その上で、本法における目的を「リハビリテーション」に関連している項目に重点をおきながら説明を加え、受講生の理解を深める。
		2) 循環器対策基本法の目標 2019年に施行された循環器対策基本法について、どのような目標があるのかを理解する。その上で、それぞれの目標について詳細を理解する。この項においても「リハビリテーション」に関連する分野の目標について今後どのような取り組みがなされようとしているのかを理解する。

## 14

## 患者・家族教育の意義とその方法

概要/ねらい	患者・家族に対し、状態・病期に即した理学療法を説明し理解を得ることの必要性を理解するとともに、どのように教育・指導するのかを整理・習得する。
--------	--

単元	項目	履修する内容
1 患者教育の必要性	1) 患者教育の必要性	循環器疾患における患者教育の必要性について、その意義を説明し、患者教育についての概要や全体論について理解する。また、指導方法の全体論についてもあわせて理解を深める。
	2) 患者教育のツール	患者教育のさまざまなツールの種類について理解する。患者教育の詳細についておよび専門用語についても解説を加え、患者教育がどのように展開されていくのかを理解する。
2 急性期の指導	1) 急性期における教育の意義	急性期における教育の意義について理解する。急性期から患者教育に取り組む必要性などの理解を深める。急性期における患者の障害受容などについて説明を加えた上で、どのような点に注意するかなども整理・理解する。
	2) 生活指導の実際	急性期における生活指導について、前項の「急性期における教育の意義」の内容を踏まえた上で、教育の実際について理解を深める。また、その中でどのような点を評価、注意すべきかをあわせて理解する。
3 回復期・生活期の指導	1) 回復期・生活期における教育の意義	回復期における教育の意義について理解する。回復期や維持期の特徴を説明した上で、回復期から行う患者教育の必要性などについて理解を深める。回復期における患者の障害受容などについても説明を加えた上で本人、家族へどのような点に注意するかなども整理・理解する。
	2) 生活指導の実際	回復期における生活指導とはどのようなものなのか、前項の「回復期における教育の意義」の内容を踏まえた上で、教育の実際について説明する。また、その中でどのような点を評価、注意していくのかなどもあわせて整理・理解する。

## 15

## 社会資源の活用

概要／ねらい

障害などを持って生活する上で利用できる社会資源やそれらの活用方法を理解する。

単元		項目	履修する内容
1	自立支援制度	1) 制度の概要	自立支援医療制度の概要や意義について理解する。さらに、自立支援医療費の支給対象、利用者負担などについて整理・理解する。また、申請の際の方法や必要書類などについて順を追って説明し、申請や制度について理解を深める。
		2) 心臓疾患の概要	自立支援制度の中の心臓疾患（内部障害）について理解する。前項の「制度の概要」をもとに、心臓疾患の中でもどのような診断名が対象なのかを説明する。また、理学療法士としてどのような評価が必要なのかもあわせて理解する。
2	介護保険	1) 制度の概要	介護保険制度の概要や意義について理解する。さらに、介護保険の申請対象、利用者負担などについて整理・理解する。また、申請の際の方法や必要書類などについて順を追って説明し、申請や制度について理解を深める。
		2) 心臓疾患の概要	介護保険の中の心臓疾患（内部障害）について理解する。介護保険利用者の中で循環器疾患がどの程度いるのかなどの疾患特性を整理・理解した上で、理学療法士としてどのような評価が必要なのかもあわせて理解する。
3	身体障害者	1) 制度の概要	身体障害者手帳の概要や意義について理解する。さらに、身体障害者手帳の申請対象、利用者負担などについて整理・理解する。また、申請の際の方法や必要書類などについて順を追って説明し、申請や制度について理解を深める。
		2) 心臓疾患の概要	身体障害者手帳の中の心臓疾患（内部障害）について理解する。前項の「制度の概要」をもとに、心臓疾患の中でもどのような診断名が対象なのかを理解する。また、理学療法士としてどのような評価が必要なのかもあわせて理解する。

## 循環 選択科目

※5コマ以上を履修することを修了要件とする。

# 1

### 疾病・障害特異的理学療法の実際(技術編1) (心電図の診かた)

ねらい

心電図の基本波形、心電図から得られる情報を整理し、心電図モニターを監視する際の要点を理解する。

# 2

### 疾病・障害特異的理学療法の実際(技術編2) (循環・腎機能障害把握のための理学療法評価の実際)

ねらい

循環ならびに腎障害を把握する上での理学療法評価の実際を理解する。

# 3

### 疾病・障害特異的理学療法の実際(技術編3) (循環器理学療法に必要な機能的能力の評価指標)

ねらい

循環器理学療法を実践するために必要な機能的能力の評価指標を理解する。

# 4

### 疾病・障害特異的理学療法の実際(技術編4) (運動負荷試験・運動処方立案の実際)

ねらい

運動負荷試験の基本を整理し、運動負荷試験の結果から運動処方を立案する際の要点を理解する。

# 5

### 疾病・障害特異的理学療法の実際(技術編5) (リスク管理の実際)

ねらい

循環器理学療法を実践する際のリスク管理方法を理解する。

# 6

### 疾病・障害特異的理学療法の実際(技術編6) (高齢心血管器疾患に対する運動療法の実際)

ねらい

高齢心血管器疾患に対する運動療法の実際を理解する。

# 7

### 疾病・障害特異的理学療法の実際(技術編7) (慢性心不全患者に対する運動療法の実際)

ねらい

慢性心不全患者に対する運動療法の実際を理解する。

# 8

### 疾病・障害特異的理学療法の実際(技術編8) (大血管疾患に対する運動療法の実際)

ねらい

大血管疾患に対する運動療法の実際を理解する。



## **認定理学療法士 臨床認定カリキュラム シラバス**

発行日：2021年12月28日 初版発行

発行：公益社団法人日本理学療法士協会

〒106-0032 東京都港区六本木 7-11-10

TEL：03-6804-1440 FAX：03-6804-1405